

# 【一般就労】

## 2 一般就労までの道のり

### (1) 「働く」気持ちを育む

働くことは大変だけど『やりがい』があるものだ、という思いをお子様に経験させたいものです。最終的に求めたいのは自ら湧き出てくる仕事に対する意欲ですが、初期段階では自分が働くことで誰かに喜んでもらえるということに気付かせたいものです。誰かから認められている、評価されている、という気持ちはその後の大きな意欲につながります。そのため、何かしらの物事に取り組む時には次のような段階を踏んで実践するとその効果が上がります。

①やってみせる→②一緒にやる→③一人でさせる→④分からない時に質問できるようにする→⑤終わったら報告をする、という一連の流れです。

また、仕事の後には保護者が「ありがとう」と感謝の気持ちを表しましょう。自分がした仕事が役に立ったという充実感を持たせることが大切です。仕事へのやる気と、自分が誰かに何かをしてもらったときに「ありがとう」と言える習慣にもつながります。

次に、終えた仕事についての評価をします。その際は成果と課題をはっきりさせます。成果と課題を伝える時には、状況を確認しながら保護者がやってみせることやお子様と一緒にやることが重要です。

ご家庭で具体的に組み入れる仕事としてお手伝いがあります。前述の通り、やってみせて、やらせてみて、褒めてあげてください。家族から認められたり、責任を感じたりする経験がお子様の「働く」気持ちを育てます。

実際に、現場実習の場で一般企業側から「本人のやる気がまったく感じられません。」

「本人にやる気が出てきてから再度、検討します。本人の努力次第ですね。」と厳しい評価をされ、就労に至らないケースがありました。やる気を言葉で表現することは難しいのですが、現実にはそのような厳しい見方をされる場合もあります。保護者や教員に言われたから就労するのではなく、お子様本人が「ここで働きたい。」と思う気持ちが大切になります。

### (2) コミュニケーション

コミュニケーションの面では挨拶が基本となります。「おはようございます。」「さようなら。」

「ありがとうございます。」と大きな声で言えることが大切です。また、「はい。」「わかりました。」とはっきり返事をする、分からない時や困ったときに自分から助けを求めることができる、が非常に重要です。ご家庭においても、改めてこのコミュニケーション面を見直していただきたいと思います。

### (3) 保護者の協力

一般企業への就職では、保護者の協力は不可欠です。働くための環境を整えることや職場の方々と情報を共有できる関係を作っていくことが大切になります。その積み重ねが職場との信頼関係構築にもつながります。一般企業と保護者の連携ができていれば、お子様は安心して働き続けることができるでしょう。また、ご家庭におかれましては、お子様の話を聞く時間、お子様の様子を把握する時間を確保することが大切です。お子様の一番の理解者としてのサポートをお願いいたします。その一方で、お子様の長い人生と将来の自立を考えた時に、そのすべてを保護者が支えていくことは不可能ですので関係機関等との連携も必要になります。